

高齢者における口唇閉鎖訓練, もしくは 音波ブラシによる唾液流量への影響

ムルタザ サリーム

松本歯科大学 大学院歯学独立研究科 健康増進口腔科学講座
(主指導教員: 吉成 伸夫 教授)

松本歯科大学大学院歯学独立研究科博士 (歯学) 学位申請論文

The effect on salivary flow of lip trainers and sonic
toothbrushes in older Japanese patients

MURTAZA SALEEM

*Department of Oral Health Promotion, Graduate School of Oral Medicine,
Matsumoto Dental University
(Chief Academic Advisor : Professor Nobuo Yoshinari)*

The thesis submitted to the Graduate School of Oral Medicine,
Matsumoto Dental University, for the degree Ph. D. (in Dentistry)

【目的と背景】

唾液分泌の減少は, 口腔内の乾燥を惹起し, 咀嚼, 嚥下, 発音にも影響する. それに伴い口腔内常在菌が増殖すると歯周炎やう蝕の誘発に繋がる. それゆえ, 口腔乾燥感をもつ高齢者の唾液量を上げることは重要である. 今回の研究目的は, 口唇筋力固定装置および音波歯ブラシによる機械的刺激の唾液の流出状態と口腔内湿潤状態改善に対する効果を検討した.

【方法】

松本歯科大学病院歯周病科に通院する26人の口腔乾燥の自覚のある患者がこの研究に登録した. すべての患者は20本以上の歯を有しており, 年齢は60歳以上である. 被験者を, 無作為に13人ずつの2群に分けた. パタカラ群 (P 群) では, 被験者はパタカラ[®]を使用し, 1日3回, 3分のトレーニングを6か月間行った. ソニックエアー群

(S 群) では, 被験者は音波歯ブラシのソニックエアー[®]を1日3回, 2分, 6か月間使用した. 刺激時唾液量, 安静時唾液流量, 口腔湿潤性と唇閉鎖力を, 訓練開始前, 1か月後, 6か月後に測定した. また, 歯周組織検査 (プロービング深さ, 臨床アタッチメントレベル, プロービング時の出血) を訓練開始前とベースラインの6か月時点で行った.

【結果】

刺激時唾液量と安静時唾液量について, 両群とも1か月, 6か月の時点で増加しており, S 群よりも P 群のほうがより唾液量が増加した. さらに, P 群は口腔内湿潤度においても S 群より増加していた. P 群における口唇閉鎖力は1か月後と6か月後ともに向上した. 臨床パラメーターは, 両群で改善が認められたが, S 群でより改善された.

【結論】

高齢患者における口腔乾燥度は、口唇筋力ト

レーニングとソニックエアー[®]でブラッシングしたことによって向上した。